

# まこと

*Volume 64 No.6  
JUNE 2017*



*Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii*

# 5 月 月 次 祭 祭 文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾、一同を代表して、慎んで申し上げます。

親神様には陽気ぐらしを楽しみに人間世界をお創め下さり、日夜絶え間なくお見守り下され、結構にお連れ通り下さいます御守護の程は、誠にありがたく勿体ない極みでございます。私共は、この真実の教えに導かれ、日々に親神様の御守護を感じ、喜び勇んで暮らさせていただいておりますと共に、教祖のひながたに少しでも近づこうと、成人の努力を積み重ねておりますが、その中でも本日は当伝道庁の5月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同、真柱継承者中山大亮様を芯に心を合わせ、座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめて、世界たすけへの真剣な祈りを捧げさせていただきます。御前には今日一日を楽しみに寄り集ったハワイの道の兄弟姉妹が、真心を込めてみかぐらうたを唱和し、つとめに勇む状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

昨日は、今回初めてハワイにお入り込み下さった青年会長中山大亮様のご臨席を賜わり、青年会創立百周年決起・第60回ハワイ青年会総会を盛大に開催させていただき、また婦人会も今年の総会を、大亮様を間近に拝する感激と興奮をもって賑やかに開催させていただきました御守護のほど、改めて厚く御礼申し上げます。

これを吉祥として、私共一同は、世界たすけをお急き込み下さる親神様のお心に少しでもお応えさせて頂けるよう、今後もさらなる真実を積み重ねて、陽気ぐらし世界ふしんへの歩みを日々しっかりと進めさせていただきます。何卒親神

様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、互いにたすけ合い睦み合う真の平和世界である陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお願いのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

## 祭典役割

祭主	庁長		
扨者	美馬孝俊	柿谷節生	
賛者	岩田バート	齋藤ダスティン	
指図方	三國クライド		
講話者	三國ウェスリー (英)		
通訳者	一瀬常德	(日)	

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	大亮様 庁長 T. 西村	M. 稲福 O. 中尾 S. 柿谷	T. 岩田 M. 中尾 B. 美馬
てをどり (女性)	庁長夫人 M. 柿谷 Y. 西村	M. 岩田 K. 齋藤 N. 椎葉	R. 宮内 L. 長田 Y. 川崎
笛	久保先生	D. 明本	H. 山本
チャンポン	G. 本田	S. 椎葉	S. 社本
拍子木	M. 社本	M. 久尾	G. 井元
太鼓	安藤先生	T. 井上	K. 川崎
すりがね	C. 三國	W. 三國	D. 齋藤
小鼓	T. 美馬	T. 一瀬	B. 岩田
琴	C. 美馬	K. 金川	Y. 一瀬
三味線	M. 三國	L. 蘇	F. 伊藤
胡弓	C. 明本	L. 本田	L. 井上
地方	Y. 中尾 M. 岩田	Y. 宮内 E. 高田	D. 桧垣 D. 鈴木

アロハ！おはようございます！ただ今は、おつとめを勇んで勤めさせていただき、親神様、教祖も大変お喜びくださったものと思わせていただきます。

まず最初に、真柱後継者中山大亮様、今日はお参拝くださり、ありがとうございます。そして昨日、青年会百周年を迎えるにあたっての決起大会が盛大に催されましたこと、ハワイの青年会、婦人会、そして女子青年にお祝い申し上げます。現在のハワイ青年会には大変な勢いとバイタリティーを感じ、私ももう少し若ければ今の青年会の活動に参加できたのに、と思うほどです。私は今年の9月1日に49歳になりますが、今年の9月1日と言えば、大亮様が愛らしいご婚約者、上川布恵様との結婚式を挙げられる日です。大変嬉しい偶然です。これで大亮様は、毎年結婚記念日をお祝いされるたびに、私やハワイの美しいビーチを思い出してくださるかもしれません。

このたびは、伝道庁での初めての神殿講話の機会を与えてくださいましたこと、山中庁長夫妻にお礼申し上げます。ご存知のことと思いますが、私は2015年に太平洋教会の教会長に就任しました。経験が浅いものですから、私の講話で皆様のためになることは全くないかも知れない、ということをお先に申し上げておきます。今から20分ほど、どうぞ我慢してお付き合いください。

毎年1月には春季大祭、10月には秋季大祭、そして4月には教祖誕生祭が勤められますが、5月の月次祭も特別な月次祭なのですが、それはなぜなのか、どなたか答えられる方はいませんか？はい、その通りです。それは「ちば定め」が行われた記念すべき日が5月だからなのです。

「ちば」は色々な意味において重要な場所です。ちばは人間が最初に宿し込まれた場所であり、いざなぎのみことと、いざなみのみことのほん真ん中にあたる場所です。ちばは親神様がお鎮まりくださる



所であり、私たちが親神様とお呼びする天理王命の神名が与えられた場所です。ちばはかんろだいが据えられている場所であり、世界たすけを祈念して勤めるおつとめの目標です。さらに、ちばは神様から頂く全てのご守護の根源です。

このように重要な場所でありながらも、ちば定めが行われたのは142年前、教祖のひながたの後半にあたる1875年でした。私はラルフ・イノウエ氏が創設した会社で勤務していますが、今年102歳になるイノウエ氏は、今でも週に数回会社に来ています。イノウエ氏の年齢を思うと、教祖がお屋敷の庭を歩かれ、ちばを定められた時がより最近のことのように感じられます。

ところで、このちば定めはその8年前、1868年に教祖がお書きになられたみかぐらうたに予言されています。興味深いことに、「ちば」というが最初に出て来るのは五下り目で、これは5月の5と関係しているように思えます。

こゝはこのよのものとちば  
めづらしところがあらはれた

「元のちば」へ帰らせていただくと、めづらしいことが起こるというお言葉が続いています。2014年のことですが、山中庁長から、「川崎カイルが教人資格検定講習を受けるつもりらしいので、カイルと一緒に受けてはどうか？」と言われました。その当時、私は仕事と家族のことばかりに集中していて、お道や教会関係のことはあまり考えていません

でした。それでも、私は鼓笛隊の頃からカイルを知っていますし、講習を一緒に受ければ楽しいだろうなと思いました。1カ月間も娘のジェナと二人の小さい男の子を妻一人に置いて行くのは少々心配だったのですが、妻の恵子が応援してくれましたので、講習を受ける決心をしました。

私はまるで会社から休暇を取ってバケーションにでも出かけるがごとく、穏やかな気持ちでハワイを出発しました。ところが天理に到着した途端、私はそこに勇んだ活気を感じました。皆さんもその感覚をお分かりになるのではないのでしょうか。永尾比奈夫先生は、親里へ帰った時に感じるこの幸せ感溢れるこの感覚を「おぢばマジック」と呼んでいます。

元気の良いクラスメートたち、感動的な講義をしてくださる講師の先生方、詰所での生活、神殿での参拝、そしてひのきしんなど、講習は初めから最後まで本当に楽しいものでした。炊事本部の食事本当に美味しい食事でした。結論だけお話しさせていただきますと、三週間の講習が終わる頃には、カイルがアロハ教会の会長を継承する翌年に、私も太平洋教会を継がせていただくことを定めていました。

教会長をすでに30年間務めていた父にとって、教会を継ぐという私の心定めを聞いて嬉しく思ったというよりむしろホッとした気持ちの方が大きかったのではないかと思います。とはいえ、三人の幼い子供たちとジェナを抱えている状況から、父がやったように仕事を辞め、フルタイムの教会長になることは私には無理だと考えました。

仕事を辞めなければならないだろうか、と悩みながらも、どちらも両立していくのが一番良いのだろうと心を治めていました。そんなのは世間並みの考え方から出る決断だ、と仰る方もおられるかもしれませんが、特にここハワイにおいて、世俗的な仕事から私が苦難やストレスを体験することは、お道の信仰者であるか未信者であるかにかかわらず、日々の生活のために懸命に働いている人たちの気持ちを共有できることにもつながります。

そんな中、2015年6月の伝道庁の月次祭で、ま

さにここに立つてされた椎葉スパーキー会長の神殿講話を聞いて、私の心が固まりました。椎葉先生は、それまで色々な仕事に就いてきたことや、仕事を同時に四つ持っていたこともあったと話された後、「正しい心を持ち続けるための方法は、仕事が収入を得る場所と考えるのではなく、布教、つまりにをいかけの機会と捉えることです」と言われました。

皆さんの中にも私と同じような方がおられるかも知れませんが、悲しいことに、私はそれまで職場をそのように考えたことは全くありませんでした。私たちは、私たちの生活には教会の中の生活と外の生活という二面性があると考えがちなのではないでしょうか。しかし、それからというもの、私は常にあのお話を忘れずにいるおかげで、教会の外へ出かけることについての見方を変えることが出来ましたし、また、会社の同僚や取引業者、顧客など、つまり職場を介してでなければできなかった人たちに対してにをいかけさせていただくことやおさづけを取り次ぎさせていただく機会を持つことができるようになりました。お礼が遅くなりましたが、「スパーキーさん、心に響くお話、ありがとうございます。」

しかし、一日10時間教会の外にいるという問題は残ったままで、信者さんやその他の人たちと持てる時間はほんのわずかです。そこで仕方なく、従来のもとは異なるやり方でにをいかけをする方法を考えました。パンフレットを持っていなくても他人様に見ていただけるウェブサイトを創りました。興味のある方がおられましたら、[www.taiheiyochurch.com](http://www.taiheiyochurch.com)をご覧ください。ハワイに戻って来た幼なじみのクレイグ・ニシオが、フェイスブックに毎朝の講話を載せてみたら…と勧めてくれました。このようにして、日々のおつとめに参拝できない信者さんたちとも、毎日5分間の交流ができるようになり、教会や教祖とつながることが出来ました。

ソーシャルメディアと「友達から友達へ」というパワーをもって、太平洋教会の信者さん方だ

けでなく、時には一回のフェイスブックで600人以上にもなりますが、その他多くの人たちとの交流を持てるようになりました。これは600人の方々にパンフレットを配ったことに匹敵します。フェイスブックをやっておられる方は、「Tenrikyo Taiheiyo Church」をご覧ください。現在の電子社会において、オンライン・メディアは、情報伝達の最も効果的且つ効率的な方法です。どのような方が読んでくださるのかは分かりませんが、天理王命の神名を世界中に素早く広めることができます。

これは最近のことなのですが、ウェブページを介してブルガリアの男性からコンタクトがありました。そう、皆さんと同じように私も、「エッ、ブルガリアって一体どこにあるの?」と思いました。ブルガリアはギリシャの北、イタリアの東にあります。オンラインにあるその方のプロフィールにあったのは、ベレット帽を被り軍服を着た男性でしたので、最初はちょっと怪しく思いました。しかし、その方は教理に接し、教祖に勇気づけていただいた。おふでさきを読んだその方は、「おふでさきは本当に魅惑的です。私は、教祖のみ教えと世界たすけを達成するという目標に心が震え、本当に嬉しく思っています。教祖がお書きになった神様のお言葉に、親心からの激励を初めから感じ取っていました」と書いていました。

私は彼に、日本語やおつとめの形態が妨げになっていないかどうか尋ねました。すると彼は、「神様のお言葉は、一つの国や言語だけに限られている、と私は考えていません。神様のご啓示は、教祖を通して日本からなされたわけですが、そのお導きは、神様の子供たち全てに対して与えられたものです。『よふきづとめ』というお言葉をもって、神様と神様の子供たちが共に共有する陽気を実現させてやりたいという神の思召を感じます」と答えました。

このような言葉を聞いて、にをいかけ活動を私たちが生活する地域や職場だけに制限してはいけないのではないだろうかという私の考え方が、より強固なものになりました。視野を大きくもって

考えてみませんか？私のブルガリアの友人が言うように、私たちの目標は「世界」たすけを達成することなのでありますから…。

2015年に太平洋教会の4代会長に就任した後、教会長とその配偶者のための新任教会長の集いがあるという通知を受け、私は妻の恵子と共に、2016年5月に川崎カイル、陽子夫妻と一緒に参加させていただきました。この時もまた、大変素晴らしい体験をさせていただき、多勢のご夫婦が参加されているのを見て、心が躍りました。私より若い先生方もおられましたが、私と同年配の先生方や、年上の先生方も参加しておられました。もちろん、その中には女性の先生方もおられました。これには新任の大教会長さんたちも参加されており、飯降政彦先生もご夫人と一緒に参加しておられました。

二日間の集いの最後には、参加した250名全員が教祖殿に集まり真柱様からお話を頂戴しました。およそ1時間のお話の間は正座したままでしたので、足がしびれてしまうのではないかと心配でしたが、驚いたことに、お話の間ほとんど姿勢を変えずに聞かせていただくことができました。

真柱様は、日本そして海外で教会を設置された先輩先生方についてお話しされました。布教、そしておたすけに励み、教会を設立し、信者さん方の丹精をされた先輩先生方のひとすじ心について丁寧にお話しくださいました。にをいかけ、おたすけ、にをいかけ、おたすけ…。先輩先生方は、来る日も来る日もにをいかけ、おたすけに向かわれました。決してくじけることのない揺るぎない精神で向かわれていたからこそ、神様はその心を受け取り、いつまでもお道を信じ、献身的に通る信者さん方を先輩先生方にお与えくださったのです。

真柱様はまた、教会の名称の理についても強調してお話しくださいました。教会の名称は存命の教祖から授けていただいたものであり、み教えに心を一つに合わせ、ひとすじ心でおたすけに向かうことを誓ったその誠真実に対して与えていただいたものである、とお話しくださいました。日本そして海外の至る所に何千という数の教会を設立

された道の先駆者たちは、10年先、20年先を考えて布教されたのではなく、自分たちの一生だけを考えて布教されたのでもありません。道の先駆者たちは、何代もの未来に続くことを願って教会名称の理を設立されたのです。

だからこそ、現在の私たちに課せられている責務は、神一条の理を伝えてきた先駆者たちの布教活動を継承し、それぞれの教会においてたすけ一条を実行していくことにあります。近所の方々に陽気ぐらしとはいかなるものかをお見せできるよ

う、そして私たちの教会にはどうして笑顔と笑い声が絶えないのかと興味を持つ人たちがいずれ参拝に来てくださるよう、努力を惜しまずに活気溢れる教会にしましょう。子供や孫たちに心からの信仰を伝えましょう。走り回っても、少々うるさくてもそんな事を気にせず、私たちが子供や孫を教会に連れて来ましょう。地域で困っている方々に手を差し伸べましょう。そのようにして、沈滞ムードを好転させ、成長と繁栄の新しい時代に突き進んでいきましょう。ご清聴ありがとうございます。

## 青年会創立百周年決起 第60回ハワイ青年会総会開催

5月20日、青年会長である中山大亮様のご臨席のもと「青年会創立百周年決起 第60回ハワイ青年会総会」が開催され、青年会員ら55人が参集しました。ご告辞に立たれた大亮様は「日々の陽気ぐらしの実践」を呼びかけられました。大亮様は、総会に先立ち、17日から19日にかけて伝道庁管内の5カ所の教会をご参拝されたほか、ワイキキでは青年会員らと共に神名流しやリーフレット配りを行われました。本稿では、会員を代表をしてつとめられた岩田タッドさんの感話を掲載します。



おはようございます。このたびこうして中山大亮青年会長様をはじめ、安藤吉人委員長、久保一元委員、山中庁長夫妻、そしてハワイ青年会員の皆さま、また本日お集りの皆さまの前に立たせていただけることを誠に光栄に、またもったいなく思っています。なぜ私が弁士として選ばれたのか未だにわかっていませんが、おそらく、私自身40歳になり、これが青年会員としてお話をさせていただける最後の機会ということで選ばれたものと思っています。どのような理由であるにせよ、菊地カイル委員長の期待に応えられるよう全力でつとめさせていただき、私の経験について皆さまに

少しだけお話しさせていただきたいと思えます。本日の総会は、私たち青年会員にとって極めて重要な塚である天理教青年会創立百周年へ向けての決起大会ということで、自分の役割の重みをあらためて痛感しています。少しの時間、お付き合いいただけますよう、お願いいたします。

本日は、「胸から胸へのにをいがけ」について話すようにとされています。私にとってのにをいがけの鍵というのは、つながりを作ること、人との関係を築くこと、の中にあります。そのため「胸から胸へ」が重要となるのです。にをいがけはあらかじめとうりょうの役目として非常に大切なことですが、皆さんの中には、その価値を見出せなかったり、拒絶されることを恐れたりと、様々な理由でなかなか積極的になれない方もいると思えます。そのような感情を抱くことは決して珍しいことではなく、私自身にも経験があります。しかし、本日私の話の中で、皆さんのにをいがけに対してのモチベーションを少しでも上げられるようなことが一つでもあれば、うれしく思います。

私は23歳の時に高校教師の職を辞め、道専務となりました。おちばで教会長資格検定講習会を受講し、心の成人を達成する一番の近道は、しっかりと心を定めることだと学びました。私はにをいがけ、戸別訪問に歩くことを心定めし、ハワイに帰ってすぐに実行しました。多くの人は、なぜ私がそんなことをするのか理解できませんでしたが、天理教の人でさえ、戸別訪問が果たして教えを広めるのに効果的な方法なのかを疑問視する人もいました。そのような中でも私をやる気にさせたのは、私たちの先人がハワイで道を広めるために辿った道を少しでも通らせてもらいたい、という思いでした。今日、私たちがこうしてハワイで信仰を持っているのは、先人たちが誠実を尽くしたおかげです。並大抵なことではないとはわかっていましたが、親神様に心定めをしましたので、最大限の努力をしようと決めました。

もうかれこれ20年も前の話になりますが、当時行っていた戸別訪問では多くのことを学び、その経験のほとんどを鮮明に覚えています。私が学んだことの一つは、にをいがけというのは、ただ単に人々をお道に導くだけでなく、さらに重要なのは、自分自身が心の成人をする場でもある、ということです。戸別訪問のにをいがけほど、心が低くなる経験はありません。例えば、ある日、ある家の玄関に感じの良い女性が立っていました。私は近寄って自己紹介をし、その女性と会話を始めようとしたところ、女性の集団がいきなり家の中から出てきて、「これがカトリック修道女の寮だと知ってやって来たのですか？」と言いました。彼女たちは、違う宗教の男が修道女の寮で布教をしようとしていることに驚いていました。私も驚きました。このことや他の多くの経験を経て、私の心はたちまち低くなり、また恥を捨て心を低く通ることによって、私はにをいがけを続けることができたのです。

陽気ぐらしの教えを人々に、全く見知らぬ人に広めようとするのは容易なことではありません。しかし、にをいがけを続けることで、私自身の心の持

ち方が変化し始めていることに気づきました。最初は、私の話を聞きたがらない人々の反応を見て、拒絶されているように感じていましたが、徐々に物事をポジティブに受け取ることができるようになってきました。彼らは私が経験すべきことを、経験できるよう手助けしてくれているんだ、と思えるようになりました。

また、教祖がいつも前を歩いてくださり、おたすけのきっかけを作ってくださいていることに気づくことができるようになりました。その人が話を聴いてくれるかどうか、天理教の教えやおさづけを受け入れてくれるかどうかは、親神様次第です。私たちはただその場に立ち、教祖の足跡をたどり、喜んで行動させていただけば良いのです。心から親神様や教祖のお導きにもたれきった時、私の発する言葉や行いがスムーズに伝わるようになり、多くの人と信仰の喜びを共有することができました。また、私は、常に新しいアプローチの仕方を考えていました。おさづけの対象者がいる家の一つひとつ回り、その人たちがおさづけの申し出を受け入れてくださるよう、10～15秒で関係を築くのです。極めて単純な方法です。一見、難しそうに思えますが、これが私の課題であり、全ての家とつながりを築く、という目標でもありました。何でも良いので、その人が興味のあることを見つけて話すと、相手はそれについて、時には何時間も話したりします。自分の家の土壌のイオン指数について1時間話した方もおられました。またある人とつながりができて何時間も話し込んでしまい、ついには「なんでうちへ来たんだっけ？」と言われたこともありました。しかし、その時点で既にその人との関係は築かれているので、陽気ぐらしについて話しやすかったり、おさづけの申し出を受け入れてもらいやすくなっているのです。

また、にをいがけを通して、親神様のご守護を目の当たりにした出来事もありました。私はいつも教祖と一緒に居てくださり、道案内をしてくださっていると感じていました。自分が経験すべきことは、ベストタイミングで訪れます。少し励ましが

必要な時、あるいはもう少し課題が必要な時、親神様は間違いなくそれらを与えてくれます。例えば、にをいがけ第1日目の日に、最初に訪れた家で老夫婦に出会いました。ご夫婦は私との出会いを大変喜んでくださり、歓迎してくださり、おさづけを取りづがせてくださいました。それはまるで、初めての賭けで大金を手にしたような感じでした。親神様が私をその家に導いてくださり、おさづけを取り次ぐことで味わえる最高の喜びを、さっそく味わわせてくださったのです。この喜びの心こそ、私がある時自分を鼓舞するために、そしてにをいがけを続けるために必要としていたものだったのだと思います。

数日後、私はまたその家を訪れました。当然、その老夫婦は私をまた受け入れてくれるものと思っていましたが、親神様は私のために少し違うものを用意していました。ドアをノックすると50代くらいの男性が厳しい顔つきで出てこられました。私はとっさに、彼が誰だかわかりました。彼は私がよくテレビで目にする政治家だったのです。彼は全然私を歓迎している様子ではなかったもので、初めは、今回は遠慮してまた別の機会に来ようと思いましたが、その時すでに私は彼の家の敷地内に入っていましたし、彼も私が何をしに来たのか知りたかったので、勇気を振り絞って会話を始めました。とても緊張したのですが、驚いたことに、彼は私の家の教会についてよく知っていたのです。彼は、幼いころよくホノルル港教会に来て、私のおじさんやおばさんたちに遊んでもらった、と話してくれました。彼はすぐに私を受け入れてくださり、さらに彼の両親のために私と一緒に祈ってくれたのです。このように、私は、親神様が戸別訪問の経験を通して成人の機会を作ってくださいている、と実感しました。

当時、ハワイ布教の家がまだ活動していましたので、私も時々、布教に参加させていただいていました。布教師たちが長年の布教活動で培ったノウハウでとてもスムーズに人々に話しかける姿を見て、大変感動しました。ある一人の布教師とよく一緒

に布教に歩いたのですが、彼はまるで訪問先の家族全員を知っているかのようでした。彼はいとも簡単に会話を始めるので、一度、なんでそんなに地域の人たちをよく知っているのか、と尋ねたことがあります。すると彼は、全然知り合いではない、と答えたのです。驚きました。彼曰く、「この世界のすべての人々は兄弟姉妹なんだから、長年会っていなかった兄弟姉妹に会いに行くような感覚で戸別訪問をしている」とのことでした。私は、まったくその通りだ、と思いました。私たちがみんなが彼のような思いでお互いに接することができたら、この世界はどんなに陽気な世界になるかわかりません。

もし1カ月、1週間、もしくは1日、1時間、何分でもにをいがけに歩くことができれば、自分の想像をはるかに超えることを学ぶことができ、さらに心の成人をすることができます。青年会員のメンバーで1カ月1回のにをいがけデーを企画し、お互いに積極的な参加を促すことができれば良いなあと考えています。皆さんには、ぜひこの機会を利用して、他の青年会メンバーと共ににをいがけに出ていただきたいと思います。自分を奮い立たせてにをいがけに出ることで何がすばらしいかと言うと、自分が出会う一つひとつの事柄の中に、喜びを見つけることができるような心に成長するということです。私にとっては、にをいがけが、その後の人生で成ってくること、つまりハワイ青年会委員長を拝命したり、ハレアカラ教会長の職を頂くための土台を作り上げ、いろいろな人々とのつながりや関係を築かせてくれました。

しかし、全く知らない人へにをいがけをするということを難しいと感じる人もいるでしょう。私の妻は、私がお話をするのであれば、一緒に戸別訪問についてきてくれます。妻は後ろに立って、庭の花や植物を眺めていられるからです。

私は、そんな妻のサポートに心から感謝しています。しかし、もし皆さんの中に私の妻と同じような気持ちで、まだ戸別訪問に出る心の準備ができていない方がいれば、ここで朗報があります。にをいが

けの機会を見つけるためには、必ずしも外に出て知らない人と話すことが必要なのではないのです。周りを見てみると、私たちとつながったたくさんの人々がいます。その人たちは、進むべき方向がわからず道しるべを必要としていたり、陽気な人生を探し求めているかもしれません。立ち止まって目を閉じ、自分の人生に関わっている全ての人のことを考えてみてください。自分の知り合いで、不幸な思いをしている人、病気や様々な問題で苦しんでいる人はいないでしょうか。それは自分の愛する人であったり、親戚や友人、近所の人、もしくは同僚であるかもしれません。あなたは何人思い浮かびますか。5人、10人、それとも20人でしょうか。その人たちの人生が変わるのを、見たいと思いませんか。人をたずねる機会というのは、絶えずやってきます。起こってくるシチュエーションは全て、私たちが成人をするために用意されたものであり、陽気ぐらし世界建設に向かって、親神様の手足となって働く機会でもあります。私たちの使命は、あらかとうりょうとして、またよふぼくとして、教祖のお供をさせていただき、旬が来れば行動を起こすことです。私は、教祖のお供をさせていただくことが、自分自身だけでなく、周りの人たちにも大きな喜びをもたらす、ということを何度も何度も経験しました。その経験について、少しお話させていただきます。

天理教ハレアカラ教会は、マウイ島のワイルクという地区の比較的古い地域にあり、敷地は200坪程あります。教会はその敷地内の前方に建てられています。初めてハレアカラに引っ越した時、果物の木はいくつかあったのですが、敷地内のほとんどはナッツグラスという雑草に覆われていて、しかもその雑草はものすごい速さで成長するので、除草がとても追いつきませんでした。草引きは、果てしない戦いでした。雑草は1日に2.5センチほど伸びるので、私は何カ月も根っ子から引っっこ抜く作業を続けましたが、結局1日でも雨が降ると、次の日にはまた元通り生えそろうています。数年後、ついに私はあきらめ、敗北宣言をし

ました。もっとましな時間の使い方がある、と考え、青年会員なら誰でもすべき、ひのきしんに出歩くようになりました。

最初は単純に草刈り機を持って通りを行ったり来たりし、よその家の前の伸びすぎている芝生を刈ることから始めました。その通りの住人はほとんどが年輩の方々に、家の庭の手入れが困難であったため、私を快く歓迎してくれました。雑草を刈り、道路に飛び出している木の枝の剪定をしました。数回も繰り返すと、住人たちが顔を出し、私に挨拶をするようになり、会話が始まります。その会話の中で、多くの方が毎日朝夕に聞こえてくるおつとめについて尋ねてきました。毎朝おつとめの音色を聞くことで心が晴れ、一日を始めることができるんだ、と話してくださる方もいました。また、抱えている事情や健康問題について打ち明けてくれる人も現れ、それがおさづけの理を取り次がせて頂く絶好の機会となり、彼らもそれを快く受け入れてくれました。私たちにはこうして既に関係が築かれていたので、その近所の方々は安心して抱えている事情について打ち明けてくれましたし、また私の信仰やおつとめ、おさづけについての話にも、理解を示してくれました。

その方々一人ひとりについてお話したいところですが、今日は、ある一人の女性について、みなさんに聞いていただきたいと思います。彼女は私たちの地域に6年前に引っ越してきました。引っ越してきて間もない頃、私が通りを掃除していると彼女がやってきて、「役所で働いている方ですか?」と言いました。私は「いいえ、私はただの近所の住人です」と答えると、彼女は、「あなたは役所に請求書を送るべきです。こんなに働いているのだから」と真剣な顔で言いました。思わず笑ってしまい、好きでさせてもらっていることを伝えました。

その後自己紹介をして、庭の手入れを手伝いましょうか、と尋ねると、彼女は快く受け入れてくれました。庭の掃除をしてから、彼女としばらくの間話をしました。彼女はたくさんのお話を抱えてお

り、全てを話し終わった後は気持ちが安らいだようでした。その時以来、彼女は私たちに家族のように接するようになりました。料理を作って私の家へわざわざ持ってきてくれたり、私の息子たちの面倒を見てくれたり、またときには家のホームパーティに招待してくれたりもしました。3年ほど前、彼女の心臓と肺に病気が見つかりました。おさづけを取り次がせていただきたいと思い、彼女に申し出たところ、すぐに受け入れてくれたのですが、そこで初めて彼女がカトリック信者であることを知りました。私は問題ないことを伝え、おさづけを取り次ぎ、その後、私たちの心と身体について、また陽気な人生を生きることなどについて話をさせていただきました。

彼女は常に自分はカトリック信者であると言っていました。私と妻のことをいつも歓迎してくれ、私たちはほとんど毎日、おさづけに通わせていただきました。おさづけは彼女の心を楽にし、心を穏やかにしました。ある日、奇跡的なことが起こったのです。彼女が言うには、自分の孫が日本に行き、あるプログラムに参加する、と。そしてそれはもしかしたらあなたの教会と関係のあるプログラムかもしれない、と言うのです。全く信じられない思いで彼女のお孫さんと連絡をとると、それは皆さんご存知のブロック・バルであり、彼は、ハワイセントラル教会の導きによっておぢばの修養科に入る、ということだったのです。孫が自分がよく知る信仰のプログラムに参加すると知って、彼女はどんなに喜び、心が満たされたことでしょうか。

1年前、彼女が息を引き取る際、私は最後のおさづけをさせていただくことができました。彼女は自宅で家族みんなに囲まれ、80歳半ばで安らかに出直しました。出直した直後に彼女の家族がやってきて、私に葬儀を執り行ってほしい、と言うのです。私は驚いて「彼女はカトリックではなかったですか？」と尋ねたところ、家族は、「あなたこそが、彼女の心の指導者でした。そして天理教について彼女は晩年よく話をしましたし、教えを信じていました」と語ってくださったのです。

涙があふれました。

彼女が出直した後、孫のブロックが葬儀に出席するために帰って来ていましたので、彼に祭官をお願いしたところ、しっかりとつとめてくれました。出直したおばあちゃんも、大変喜んでくれたと思います。

このお話はここで終わっても完結できるのですが、この話にはさらに続きがあるのです。草刈り機を片手に自己紹介をしたあの日から、親神様が用意してくださっていたものです。最後の数カ月間、彼女には住み込みの看護師が付いていました。この看護師は毎日私と妻がやってきて、彼女のために祈る姿を見ていました。ある日、彼女が言うには、その看護師も、おさづけをしてほしがっている、というのです。私はすぐに、その看護師におさづけを取り次がせていただきました。その時から、彼は、私たちの教会の朝夕のおつとめと月次祭に来るようになったのです。昨年夏にはハワイ修養会に参加し、その後おぢばがえりをし、おさづけの理を拝戴しました。

この男性看護師は、会ったことがある人もいるかもしれませんが、教会に数人の友人を連れてきてくれました。その中の一人はおつとめにとっても感銘を受け、彼もまた、毎朝、朝づとめに参拝するようになりました。彼はヒスパニック系で、日本語を全く知りませんが、それでもみかぐらうたを唱和し、鳴物を演奏することが大好きです。おつとめに全身のエネルギーを費やしている、と言っても過言ではありません。彼にとっておつとめは、日本語で歌を歌うことと同様、初めての経験でした。しかし、彼はいつも、誠真実の心でおつとめをつとめてくれるのです。彼は、おつとめをつとめることで心が癒され、その癒された心を出会った人々と共有することができるんだ、と言います。おつとめ後、私たちは一緒に原典を読み、教えについて話し合ったり、どうしたら陽気な暮らしがおくれるか、を議論しています。

ある日、彼は、庭でひのきしんをさせてもらえないか、と言ってきました。もちろん、うちの庭

は雑草だらけです。快諾して、少しだけ庭で草引きをしてもらおうと思っていました。しかし、彼は毎日何時間もひのきしんを続け、教会の庭を、花、果物、野菜でいっぱいのトロピカルガーデンに変身させてしまったのです。ここにいる皆さんにも、ぜひ見に来てもらいたいです。青年会布教キャラバンでマウイ島に来た方々は、ハレアカラ教会に立ち寄り、見てくださったと思います。それ以来、彼は可能な限り全てのスペースを花、果物、野菜で埋め尽くしてしまいました。彼は毎日喜び勇んでガーデニングをしてくれ、ひのきしんをしている時でさえも、みかぐら歌を聴いているのです。

さらに驚くことに、彼はよく近所から人を連れてきて、一緒にひのきしんに励むのです。彼は誰とでも簡単に打ち解けることができ、よく教会やおつとめ、ひのきしんについて話をしてくれています。白人やフィリピン人、ハワイアンに韓国人。色々な人が彼に連れられて教会へやってきます。その中にはおつとめに参加してくれる人もいます。彼らは自分のガーデニング道具を持参します。水道代を負担させてくれという人まで現れました。何よりも嬉しいのは、彼らはこのひのきしんに参加できることに、感謝の心を表してくれるのです。私が管理に音を上げた教会の庭は、近所の方々の誠真実のひのきしんのおかげで、現在はお供え物にしたり近所に配って回る果物や野菜、花を栽培する場となりました。庭がこんな風に生まれ変わるとは全く想像ができなかったし、また自分一人の力では、到底実現し得ないことでした。やはり、全ての事柄は、親神様の深い思惑の上に成ってくるのです。思い返してみると、私がつながりや関係を築いた人々は、おさづけや親神様の教えに対してとても寛容で、いつも快く受け入れてくれます。どうか皆さんにも、身近な人に寄り添い、胸から胸へに

をいをかけていただきたいと思います。親神様のお働きと教祖の道しるべ、そして土台となる教えがあれば、自信を持って挑むことができるはずです。たすけの手を必要としている人に寄り添いましょう、そして親神様の手足となって陽気ぐらし世界建設へと向かいましょう。しかし、私たちがその人をたすけるわけではないということ、またその人が私たちの言葉や行いを受け入れるよう、コントロールすることもできない、ということをお忘れなくください。全ては親神様次第であります。私たちは単にそのような機会に出くわしたら、自分のつとめを喜んで果たすだけです。誠真実の心を持ってそのつとめを果たすことができたならば、自分自身の心の成人を実感することができ、私たちの人生はより陽気に立ち替わり、あらかきとうりょうとしてこの上ない満足感を味わうことができるでしょう。

親神様はいつも私たちをお見守りくださり、陽気ぐらしに必要な全てのものをお与えくださっています。もちろん、いつも欲しいものが手に入るわけではありません。しかし、必要なものはいつも与えてくださいます。今日お集りのほとんどの皆さんは、行動を起こす旬の到来を待っているのでしょうか。その旬は今です。今、この時です。大亮様が導いてくださる今、天理教青年会創立百周年へ向かう今、そして親神様があらかきとうりょうの台頭を望まれる今。家族のため、教会のため、地域のため、そして世界のために、今、立ち上がる旬なのです。誰が賛同してくれますか？行動を起こす覚悟ができています方はお立ちください！年齢、性別に関係なくお立ちください！陽気ぐらし世界のためにお立ちください！準備はできています！私たちはあらかきとうりょうです！

ご清聴ありがとうございました。

## 訃 報

2017年5月19日、目黒栄子・マキキ教会4代会長が83歳でお出直しになられました。告別式は、6月24日（土）午後2時から細井葬儀所で執り行われます。目黒会長のご功績に深く感謝申し上げ、心より哀悼の意を表します。

## TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

### 婦人会だより

青年会創立百周年決起、及び青年会・婦人会総会に大勢のご参加ありがとうございました。ハワイに初めてお入り込みくださった大亮様はお話の中で、言葉を変えれば心が変わる、と教えてくださいました。周りの人を勇ませる温かい言葉を使わせていただきたいと思います。

#### ■バザーひのきしん (毎週水曜日)

ウエストハウス 9:00 - 12:00

#### ■ヌアヌハレ慰問

6月10日(土) 9:30

#### ■女鳴物練習

6月13日(火) 9:00

#### ■母親講座 (英語)

6月25日(日) 9:30

※講話(講師:主任)と練り合い

※月次祭直会当番は、合同Aグループです。

### 青年会だより

アロハ! 青年会創立百周年決起と総会開催に誠真実を尽くしていただきありがとうございました。本当に素晴らしい時間を皆さんと過ごすことができました。大亮様また随行の先生方もきっと感銘いただき、お勇みいただけたのではないのでしょうか。これで私たちは百周年に向けたスタートラインに立つことができました。これから勝負です。心をついにすれば何事も成し遂げられるはずです。今月の会議で百周年に向けての目標について話を進めていきたいと思っています。皆さんの参加お待ちしております。

### 女子青年だより

青年会創立百周年の決起、同時に開催された青年会・婦人会総会に参加頂きありがとうございました。

7月4日はカピオラニ公園で天理教ピクニックが開催されます。当日のゲーム進行やシェーブアイスの手伝いをお願いします。また7月16日、伝道庁月次祭後にミニバザーを行います。焼き菓子のドネーションをお願いします。

### 少年会だより

#### ■夏のこどもおちばがえり

いよいよこの時期がやってきました。ハワイ団の日程は7/24~7/30です。申し込みは、伝道庁事務所にて今月の15日までにお願いします。航空チケット代の助成は、セミナー生を除く17歳以下の参加者が対象です。詳しくは検垣ダニエル(722-7706)まで連絡ください。それから、6月25日、夜7時からお願いづとめをつとめさせていただき、続いてオリエンテーションを行いますので、おちばがえり参加者は全員参加をお願いします。

### 6月行事予定

- |        |  |
|--------|--|
| 1日(木)  | ・月例コミュニティーひのきしん<br>・バザー委員会                               |
| 5日(月)  | ・月例にをいがけデー<br>・天理文化センター月次祭<br>・婦人会委員会                    |
| 6日(火)  | ・庁長夫人帰本(~6/16)   |
| 8日(木)  | ・庁長帰本(~6/13)   |
| 10日(土) | ・婦人会ヌアヌハレ慰問  |
| 12日(月) | ・TCC&文庫ジョイント委員会  |
| 13日(火) | ・婦人会鳴物練習   |
| 14日(水) | ・青年会会議   |
| 15日(木) | ・少年会議  |
| 17日(土) | ・主事会<br>・学生会ひのきしん  |
| 18日(日) | ・月次祭<br>・サンデースクール/アロハバンド<br>・教会長布教所長会議<br>・ハワイ修養会(~7/13) |
| 19日(月) | ・ワイキキ神名流し  |
| 23日(金) | ・アダプトハイウェイ清掃   |
| 25日(日) | ・母親講座<br>・少年会オリエンテーション                                   |
| 26日(月) | ・遥拝式   |
| 28日(水) | ・青年会教典勉強会  |